

[report]

# FACEsWorkshop2021

日本頭蓋顎顔面外科学会 第17回学術講習会 報告記

学術委員長 小山明彦（福島県立医科大学 形成外科）



## “小耳症フレームワーク構築プラクティス”

第39回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会“FACEs2021”の翌日**11月13日（土）**に、第17回学術講習会「**FACEsWorkshop2021**」が、慶応大学信濃町キャンパスの組織実習室にて開催されました。

今回のテーマは「小児肋軟骨実体模型を用いた小耳症フレームワーク構築プラクティス」です。小耳症手術は難易度が高く、術者となるには術式の十分な理解と高度なスキルの習得が必要です。特にフレームワーク製作は再建耳介の出来栄を決定づける“key step”です。しかしながらフレームワークを製作する実習は少なく、トレーニングを積む機会はあまり多くありません。そこで今回の講習会は、小耳症耳介形成に必要な耳介形態の理解を深めるためのデッサンや彫刻といった基礎的実習から、小児肋軟骨実体模型を用いた小耳症フレームワーク構築にいたる、本格的なトレーニングコースとしました。実際の手術に直結する実践的な内容です。委員長がコースディレクターを務め、副委員長の杠先生にコーディネーターと講師を担当いただき、当日は委員の秋元先生、宇田先生、坂本好昭先生、そして慶応大学形成外科の教室員のみなさまにお手伝いいただきました。

今回は全国から19名の受講者が参加してくれました（応募22名）。

## Timetable

	テーマ	時間 (分)	内容	講師
9:00	開会の挨拶	5		委員長
9:05	オリエンテーション	5	プログラムの説明	小山明彦
9:10	【1】小耳症耳介形成術の基礎知識	30	小耳症治療の歴史と基礎知識、心構えを知る	杠 俊介
9:40	【2】耳介の二次元的proportionを理解する	40	耳介をデッサンする	小山明彦
10:20	coffee break	15		
10:35	【3】耳介の三次元的featureを理解する	70	ジャガイモを使って耳介を彫刻する	小山明彦 faculty
11:45	Lunch	60		
12:45	【4】フレームワーク製作 - demonstration -	30	ムービーで製作の詳細を理解する	小山明彦
13:15	【5】フレームワーク製作 - practice -	195	人工肋軟骨を用いた実習	小山明彦 faculty
16:30	discussion	15		all
16:45	修了証授与・記念撮影	10		

## Opening Lecture : 小耳症耳介再建術の基礎知識

朝9時、委員長による開会の挨拶とオリエンテーションのあと、副委員長の杠先生より、小耳症手術の歴史を中心とした基礎知識に関するレクチャーがありました。歴史を学ぶことは何事においてもとても重要です。術式がどのような反省のもとにどう改良されてきたのかを知ることは、同じ轍を踏まないためにも必要です。レクチャーでは、耳介変形の基礎知識とともに、術式の変遷やそれを裏付けるエビデンスなどについて、過去の重要な報告を余すことなく提示して教示いただきました。とても貴重な講義内容でした。



副委員長 杠 俊介先生（信州大学 形成外科）

### 【講義内容】

1. 先天性耳介変形の分類
2. 小耳症手術の歴史
3. 手術のタイミングについて
4. わが国のリーダーの業績
5. 問題に感じていること





## 耳介のデッサン：二次元的proportionを知る

午前の部は、耳介の形態をしっかりと理解し、表現を身につけるプログラムです。何を持って耳介が耳介らしく見えるのか、違和感なく自然に見えるための表現のポイントはなにか、あるいは「美しい」耳介はどのようなプロポーションなのか、耳介形成術はこれらのことをまずしっかりと理解することから始まります。そして少なくともそのイメージをスケッチに表現できなければなりません。さもなければ三次元を表現することは程遠いといえます。このステージは、単純化された耳介の二次元的な骨格をまず理解し、それをベースに自然で美しい耳が描けるようになることが目的です。

受講生の皆さんは、はじめは少しアンバランスな耳介を描いていましたが、すぐにコツを掴んで、バランスの良い耳介を上手に表現できるようになりました。



熱心に耳介の描写に打ち込む受講生の皆さん



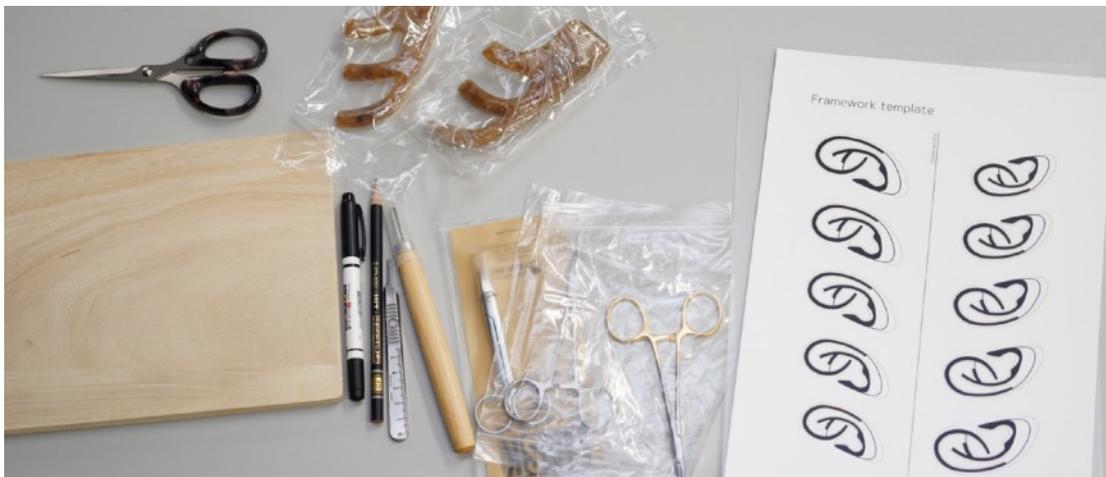
熱い個別指導!!

## 耳介の彫刻：三次元的featureを知る

コーヒブレイクのあとは、ジャガイモを使っての耳介の彫刻です。スケッチで培った美しいプロポーションの耳介を描く表現力を生かして、今度は三次元的な描写に挑戦です。

ジャガイモを半分に切った断面に、11番メスと彫刻刀を使って耳介を彫刻していきます。耳輪と対耳輪がどのような立体的位置関係にあるのか、壁のように切り立ったラインやオーバーハングした場所など、耳介の立体構造の特徴を学んでもらいました。

皆さん、夢中になって彫刻に取り掛かります。きちんと強調しなければならない大切な表現のポイントを押さえることで、全員がみるみるリアルポテト耳をきれいに仕上げられるようになりました。皆さんの写実のレベルの高さは想像以上で、感動ものです。



ジャガイモにリアルな耳介が浮かび上がります。受講生のみなさんの技術力、表現力の高さに驚きます。



## フレームワーク構築：実体模型を用いた実践的トレーニング

ランチタイムでみんなで美味しいお弁当をいただいたあとは、いよいよ最終ステップ、肋骨模型からのフレームワーク構築のプラクティスです。実際の手術におけるこの工程は、肋骨という量も形も制限された材料から無駄なく正確にパーツを切り出して組み立てていく一発勝負のとても難しく、とても重要な作業です。今日はそれを模型で体験し、トレーニングできる貴重な機会です。

模型はCTデータから抽出した実体模型で、委員会で材質を追求して、いろいろ苦労をしながら開発しました。なかなか本物の肋骨のような切れ味を忠実に再現するには至らず、固くて切りにくいのですが、それでも受講生の皆さんは一心不乱に作業に没頭します。講師のデモンストレーションを見ながら、ワンステップ、ワンステップ、じっくり構築作業を進め、フレームワークを完成させてくれました。怪我もなく、皆さんが全行程を終了できたことに感慨無量です。



フレームワーク構築にのぞむ姿は真剣そのもの



## 総評

最後は全員に修了証を授与し、記念撮影をしてコースは終了です。長いようであっという間の1日が終わりました。受講生の皆さんは、すべてのパートに真剣に取り組んでくれました。そして達成感に満ちた笑顔が眩しく、とても印象的で、大変嬉しく感じました。一世一代の勝負にかける思いで手術にのぞむ小耳症の子どもたちにしっかりと応えてくれる優れたear makerが誕生すること確信しました。今後の皆さんの大いなる成長を期待します。

今回の講習会は、ひとりひとりへの指導ができるだけ行き届くように、募集人数を20名に絞って開催しました。すぐに募集定員に達してしまい、受講が叶わなかった方には申し訳ありませんでした。次の機会に是非ご参加ください。

来年の講習会「**FACESWorkshop2022**」は、矯正歯科の基礎と顎顔面外科の治療プランニングを学ぶコースを予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。



受講生とfacultyの皆さん。「ハイ、みみ〜！」

## 成果

最後に、受講生の皆さんの成果を披露します。たった1日のプラクティスで、精度の高いフレームワーク構築ができるようになりました。みなさんの熱心な取り組みとポテンシャルの高さに感服いたします。コースディレクターが選ぶトップ5を、**金** **銀** **銅** で示します。



### 【企画・実行】

日本頭蓋顎顔面外科学会 学術委員会

委員長：小山明彦（コースディレクター）

副委員長：杠 俊介（コーディネーター）

委員：秋元正宇、宇田宏一、奥本隆行、坂本輝雄、坂本好昭、渡辺頼勝

### 【協力】

慶應義塾大学 医学部 形成外科